

留学生家族の子育てニーズに関する研究

管田 貴子¹・岡花祈一郎²

Research on the Needs of International Students' Family for Child Rearing

Takako Kanda¹, Kiichiro Okahana²

This article focuses on the needs of international students' family for child rearing in Higashihiroshima city. By the interview and the questionnaire to international students who have young children, their needs to city hall and pre-schools or day-care centers are described. As a result, they want city hall to give the information about support system of child rearing, hospitals, pre-schools and day-care centers. Because they use internet as a useful tool to get information of child-rearing, it is necessary to give them more information of it in different languages by internet. Also the parents of international students' family have difficulties in communicating with the teachers of pre-schools or day-care centers because they do not understand Japanese. The notebooks and the letters to the parents from pre-schools or day-care centers need to be translated or added "hiragana" for them. Also the translators are necessary to communicate with each other and to hold counsel with the teachers.

Key Words : international students' family, needs for child rearing, young children

1 はじめに

東広島市は1974年に西条町、八本松町、志和町、高屋町の4町が合併して誕生し、1975年に66,236人であった人口も、2000年には123,423人と急増した。さらに、2005年2月に、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町及び安芸津町と合併して新しい東広島市となり、新市の人口は179,704人となり、外国人登録者数も3,808人と増加した(2005年12月現在)¹⁾。東広島市内には80数か国に及ぶ国籍の外国籍の人々が在住しており、うち約800人は留学生という特徴をもつ。留学を目的として来日し、短期間滞在する留学生の配偶者や子どものなかには、目的意識も薄く、日本語も来当初は全くできない者が少なくないことが指摘されている²⁾。このよう

に留学生家族は、留学生である保護者が卒業または修了した時点で帰国するという数年間の滞在が前提であり、国籍は様々で、日本語が分からないまま来日する傾向があるといえよう。このような特徴をもつ留学生家族の増加にともない、子どもをもつ留学生家族の保護者が、子育てに関する情報の収集、幼稚園・保育所の入園手続きや、入園後の保育者とのコミュニケーション等において、どのような問題を抱えているのか、必要としている子育て支援は何かについて明らかにすることが求められている。

そこで本研究では、東広島市在住で就学前の子どもを育てている(または育てた経験のある)留学生家族の保護者を対象として、インタビューと質問紙による調査を行い、子育ての現状とニーズを把握し、今後の改善策を探ることを目的とする。

1 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

2 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

2 インタビュー調査

(1) 対象者と調査方法

就学前の子どもをもつ広島大学の留学生、または留学生の妻、合計7名（インドネシア人2名、中国人2名、インド人・ドイツ人・マレーシア人各1名）に、日本語、英語、中国語のいずれかの言語で非構造的インタビューを行った。現在の子育て状況と、抱えている不安や問題、必要な支援についてインタビューした。インタビュー内容は録音して、書きおこした。

(2) インタビュー調査の結果

インタビューの中で語られた内容は、大きく「行政・医療に関して」、「幼稚園・保育所に関して」、「その他」に分けられた。それぞれ、以下のような現状と課題が述べられた。

<行政・医療に関して>

- ① 市役所や病院での言葉の問題（通訳者、翻訳者、代筆者の必要性）
- ② 幼稚園・保育所の入所手続きの複雑さ
- ③ 医療の問題（英語が通じる医師がいる病院・緊急時の病院の連絡先が不明、予防接種のシステムが不明）

<幼稚園・保育所に関して>

- ① 言語の問題（保護者と保育者のコミュニケーションがとれない）
- ② 園の方針と保護者の養育習慣との違い（裸足・薄着保育、しつけ・食事などのマナーの違い）
- ③ 保護者や子どもの負担（園での特別活動や行事）
- ④ 給食の問題（宗教上食べられない物についての配慮のなさ、子どもの日本食嫌い）
- ⑤ 子どもの不適応（登園したがらず泣く、保育活動への不参加）
- ⑥ 日本人幼児との友達関係（叩く、いじめ）

<その他>

- ① 子育てを支援してくれる人の必要性（両親と離れており、日本での相談者が不在）
- ② 家庭内コミュニケーションの問題（日本語を好んで話す子どもと日本語が話せない保護者とのコミュニケーションがとりにくい）

- ③ 子どもの母語習得の不安（母語を話す機会が少ない、母語の読み書きができない）
- ④ 帰国後の子どもの再適応（子どもが帰国を嫌がる、帰国後の就学への不安）

次に、インタビューで得られた現状や子育てニーズについての回答と先行研究³⁾から、19項目からなる質問紙（日本語版、中国語版、英語版）を作成し、質問紙調査を行った。質問項目は大きく分けて、「行政に関する質問」、「子育てに関する質問」、「幼稚園・保育所に関する質問」であり、それぞれについて求める情報や抱える問題、必要な支援を明らかにする目的で作成した（資料参照）。

3 質問紙調査

(1) 対象者と調査方法

広島大学大学院の留学生で、就学前の子どもを東広島市で育てている（育てた経験がある）保護者が対象であるが、プライバシーの問題から対象者を特定し、対象者の人数を得ることができず、大学院の留学生540名全員に、質問紙に切手付き返信用封筒を添付して配布し、回収するという任意郵送法をとった。3カ国語の質問紙の中から、回答者自身が最も答えやすい言語の質問紙を選び、回答してもらった。調査期間は2004年12月～2005年3月、回答者数は40名であった。

(2) 質問紙調査の結果

<A 回答者の属性>

- ・回答者の続柄：母親56%、父親41%、無回答3%
- ・回答者の平均年齢：32.7歳
- ・回答者の夫または妻の平均年齢：33.1歳
- ・回答者の国籍：合計15カ国（上位5カ国：インドネシア28.6%、中国22.9%、マレーシア8.6%、韓国5.7%、バングラデッシュ5.7%
その他：イラン、インド、カンボジア、台湾、ドイツ、ナイジェリア、フィリピン、マラウイ、モンゴル、ルーマニア）
- ・家庭で使用する主な言語：合計16カ国語（「日本語」を主な言語として使用している割合は8.6%）
- ・回答者の滞在年数：「1～2年」が27%と最も多い

- ・回答者の滞在予定：「これから数年間」が78%と最も多い
- ・回答者の日本語能力：「あまりできない」「できない」を合わせて40%
- ・回答者の職業：留学生家族を対象としたため、「学生・研究者」が7割を占めている(表1)

表1 回答者の職業

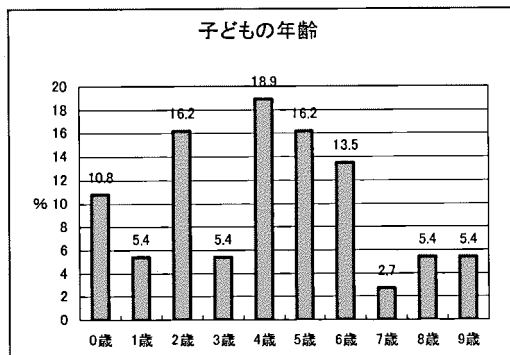
回答者の職業	%
学生・研究者	70
無職・専業主婦	16
販売・サービス	5
教員	3
自由業	3
無回答	3

また、質問紙の選択言語は、英語46%、中国語11%、日本語8%、無回答35%と、英語を選んだ回答者が多かった。

<B 子どもの属性>

第1子について回答した保護者が86.5%と最も多かった。子どもの年齢は、4歳が18.9%と最も多く、0歳児も10.8%いた。第1子を出産し、初めての子育てを、東広島市内で行っている保護者がいることがうかがえる(図1)。

図1 子どもの年齢



<C 行政に関する質問項目の結果>

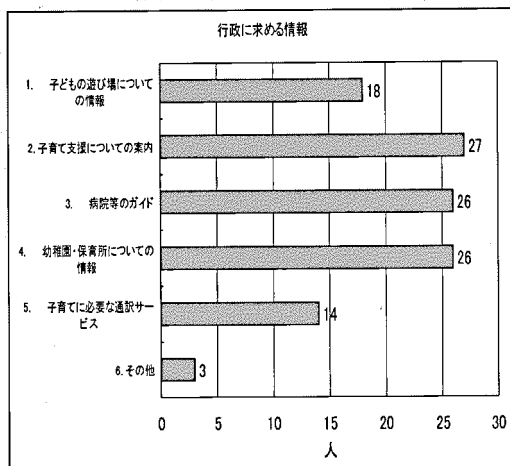
回答者は市役所に子育て支援の案内(保育所での育児相談や子育てサークルなど)や、病院、幼稚園・保育所に関する情報を求めている(図2)。その他には、「英語が話せる小児科についての情報がほしい」という記述があった。

幼児教育または保育システムについての情報や、幼稚園・保育所入園に関する情報源は、

「市役所に聞きにいった」回答者が約7割と最も多かった。しかし、幼稚園・保育所入園前に、「具体的な各園の情報を得ることが困難」であったと答えた回答者が2割いた。また、育児情報源として4割の回答者がインターネットを利用していると答えており、インターネットを通じた多言語による育児情報の提供が、一層求められていると言える。

さらに、幼稚園・保育所への入園後にも、「退園または転園に関する情報」や「小学校進学に関する情報」を4割の回答者が必要だと答えている。行政、幼稚園、保育所、小学校等の連携により、保護者が必要とするこれらの情報提供も求められる。

図2 行政に求める情報



N=37

<D 日本での子育てに関する質問項目の結果>

子育てに関する気がかり

気がかりとして特徴的なのが、「帰国後の子どもの再適応」や「母語・母国文化の習得」といった帰国後を心配する声が多かったことである。また、「一緒に遊ぶ子どもがいない」ことや、慣れない日本生活において、「病気やけが」をすることも約4割の回答者が不安に思っている(図3)。

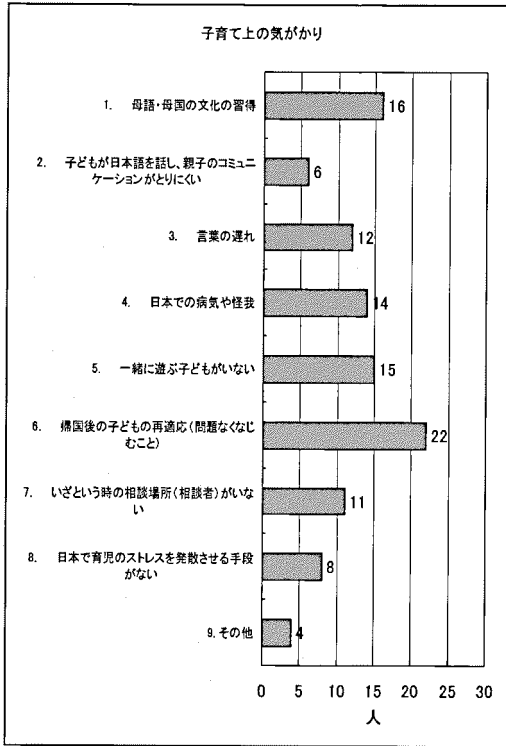
育児情報源

育児に関する情報を「園の先生」、「テレビ・ラジオ・育児書」から得ているという回答者は半数以上を占め、最も多かった(図4)。

しかし、最も信頼する情報源としては、多い

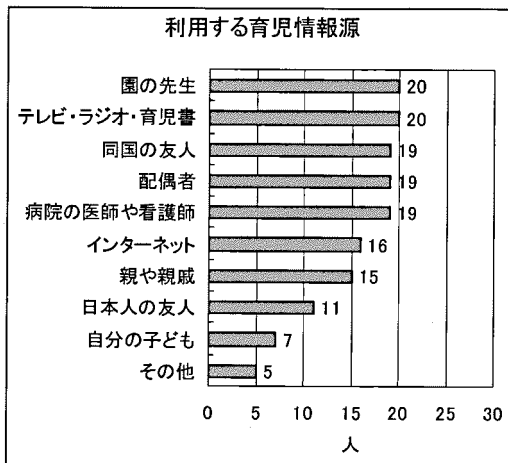
順に「配偶者」、「インターネット」、「親や親戚」、「同国の友人」、「園の先生」が挙げられた。「園の先生」は上位に挙がらず、言語や文化の違いを越えて、保護者と保育者が信頼関係を築いていくことが課題であることがうかがえる。このような課題に対する解決策を探るためにも、次に幼稚園・保育所に関する質問項目の結果を見ていきたい。

図3 子育て上の気がかり



N=37

図4 利用する育児情報源



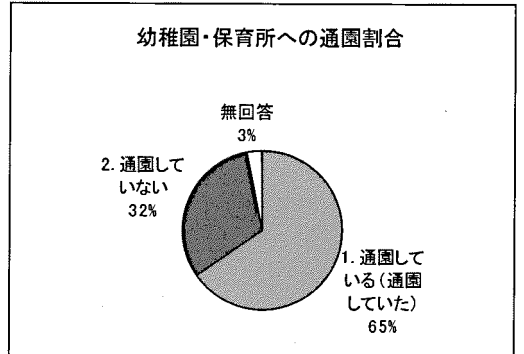
N=36

<E 幼稚園・保育所に関する質問項目の結果>

幼稚園・保育所への入所の現状

幼稚園または保育所へ子どもを通園させている回答者は65%であった(図5)。

図5 幼稚園・保育所への通園



N=37

子どもを通園させていない32%の回答者のうち、7割以上が「通園させたい」と通園を希望していた。しかし、「入園方法がわからない」という保護者も2割以上いた。インターネットや広報によって、多言語で情報を提供することにより、保護者が容易に情報を収集できるような改善が望まれる。

また、入園に必要な条件がそろわず、家庭で子育てをしている留学生家族の保護者もいる。このような保護者に対して、子どもを預けたり、育児相談をすることができるような、子育て支援に関する情報の提供が必要である。その場合、保護者が継続して相談できるように通訳者の派遣等を含め、子育て支援が受けられやすいような環境整備も課題であろう。

通園して良かったこと・困ったこと

通園の利点として、子どもが日本語を覚えられ、他児と遊べることや、保護者が仕事や勉強のための時間をもてることが上位に挙げられた(図6)。

一方、通園して困ったこととしては、「保護者と保育者のコミュニケーションがとれない」ことや、「連絡帳・おたよりが読めない」といった保育者とのコミュニケーションの問題を、4割以上の回答者が答えた(図7)。この問題を解決するためにも、「保育者から積極的に話しかけてほしい」と3割以上が回答し、「連絡

帳やおたよりが読めるように配慮してほしい」と2割以上が望んでいる。またその他として、「保育所からの要望に保護者が慣れるまで待つてほしい、保護者の要望も聞いてほしい」という願いや、「母乳を哺乳瓶に入れて渡すことが許可されていない」ことが困ったこととして記述されている。

図6 通園して良かったこと

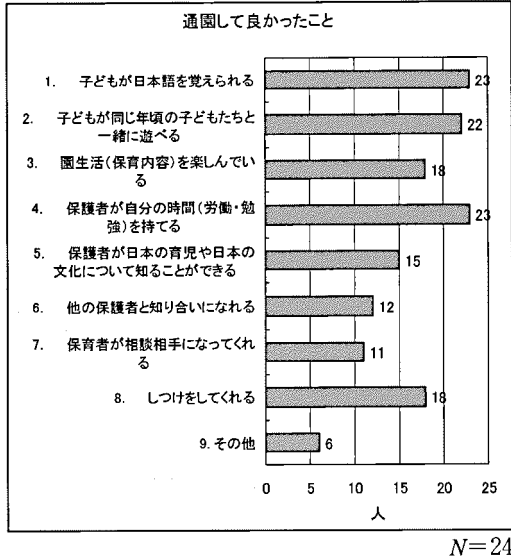
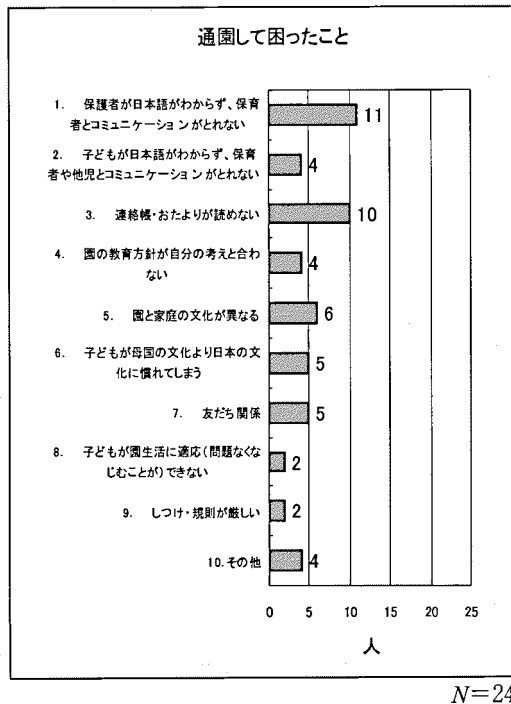


図7 通園して困ったこと



全体的に通園して良かったことのほうが、困ったことよりも回答が多い。短期間の滞在ではあるが、通園することで子どもが同じ年頃の子どもたちと遊べ、園生活を楽しめることや、日本語の習得、しつけといった教育を受けられることに価値をおいている。保護者自身が自分の時間をもてることも重要視されており、言葉の問題は感じながらも、子どもを預けられる場所を必要としており、通園の利点の方に目が向いているといえる。

子どもに対して幼稚園・保育所に望むこと

子どもに対して望むこととして、「外国人という目で見ないでほしい」という回答が半数以上を越え、最も多かった。

その他として、「外国人だからといって怖がらないでほしい」や「子どもの個性に注目し、言葉の壁を乗り越える手助けをしてほしい」という回答が見られた。また「保育所で子どもは良い扱いを受けている」という肯定的な記述もあった。

4 考察

本研究は留学生家族の保護者を対象としたため、質問紙の回答者は数年間の短期滞在者で、4割は日本語が分からず、9割以上が家庭で母語を使用しているという特徴があった。

このような留学生家族の保護者は、行政に対して子育て支援や病院、幼稚園・保育所に関する情報を求めているが、これらの情報は日本語ならば容易に入手できる情報も少なくない。また市役所では、翻訳された数カ国語のパンフレットが作成されており、それらを利用することで得られる情報もある。しかし、幼稚園や保育所の各園の情報収集や、書類の準備や記入を必要とする入園手続きに関しては、十分な支援が得られておらず、日本語の分からない留学生家族の保護者にとっては困難をとまう。回答者の4割が育児情報源として利用しているインターネットを中心に、多言語による各園や入園手続きについての情報を提供していくことで改善がはかれよう。

幼稚園・保育所に子どもを通園させている保護者は、言葉の壁を越えて、保護者と保育者との双方向的なコミュニケーションをとれるような工夫や配慮を求めている。母国とは異なった文化のなかで、相談相手を見つけられずに子育てをしている留学生家族の保護者もいるが、こ

のような保護者にとって保育者は、相談相手として、身近で貴重な存在といえよう(図4参照)。しかしながら現状としては、保育者からの一方的な伝達にならざるを得ないコミュニケーションに対して、保護者は不満をもっており(図7参照)、保護者と保育者との信頼関係の構築といった課題が見える。東広島市内の公立幼稚園・保育所には、保育に必要な多言語での会話集の本が配布されており、連絡帳も工夫されているということであった。しかし、このような本や連絡帳がどれだけ有効に利用されているのかは明らかではなく、本調査の結果から、これらのツールが十分に活かされていないのではないかと疑問が生じた。今一度、このような保護者のニーズをふまえ、保育者が必要に応じて配布物の翻訳やルビをふるといった配慮をし、保護者が育児相談をすることができるような通訳者の確保といった、言葉の問題の解決に取り組むことが求められる。また、双方向的なコミュニケーションにむけて、保育者から保護者に話しかけ、保護者の要望も聞いていくような積極的な姿勢を示していくことも望まれる。

さらに子どもに対しては、言葉の問題以上に、外国人という目で見られる、怖がられるというような、保育者や日本人幼児側の態度に対して、配慮を求める声が多かった。言葉の問題をどう解決していくかということに終始するのではなく、多様な文化的背景をもつ子どもたちが共に生活する中で、身につけていく態度や価値観についても目をむけ、日々の保育を問うことで、改善すべき点も見えてくるだろう。

5 おわりに

東広島在住で子どもをもつ外国籍保護者数や、子どもをもつ留学生数は、プライバシーの問題もあり正確な数を得ることができず、外国籍幼児の保護者を対象とした質問紙調査を行うことは困難をとらえた。しかしこのように外国籍保護者の子育ての現状や抱えている問題が把握されなければ、外国籍保護者の声が行政、幼稚園・保育所に伝えられることも難しい。さらに、外国籍保護者が必要とする子育て支援も明らかとされなければ、改善すべき点も不明なままであり、本調査の意義は大きい。

今後は幼稚園・保育所を対象とした調査を行うことで保育者側のニーズも明らかにし、保育者と外国籍保護者の要求を比較検討した上で、提供すべき子育て支援の内容をさらに探ってい

くことが求められる。

付 記

本研究は、東広島市より平成16年度地域課題研究事業として補助金を受けて実施した。「東広島市在住の外国籍幼児の現状と子育てニーズに関する研究(研究代表者 菅田貴子、協同研究者 鳥光美緒子、中西さやか、岡花祈一郎、于麗玲)」の調査報告書の一部に、加筆・修正したものである。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、インタビューや質問紙に回答していただきました留学生家族の保護者の方々、並びにご協力いただきました東広島サムエル保育園、広島大学国際部留学交流グループの方々へ感謝申し上げます。また広島大学の鳥光美緒子先生、七木田敦先生より貴重なご示唆を賜りました。お礼申し上げます。

引用・参考文献

- (1) 東広島市役所ホームページ
<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>
- (2) 横田雅弘 1997 3章 留学生の適応と教育 江淵一公編 異文化間教育研究入門 玉川大学出版部 pp. 67-84
- (3) 多文化子育てネットワーク 2001 多文化子育て調査報告書

資 料

—質問項目—

1. 子どもに関する質問
 - Q1 子どもの性別、年齢、出生順位
 - Q2 子どもの日本での滞在年数
 - Q3 子どもと回答者の関係 ①母親 ②父親 ③その他
2. 行政に関する質問
 - Q4 行政に求める子育て情報 ①子どもの遊び場についての情報 ②子育て支援についての案内 ③病院等のガイド ④幼稚園・保育所についての情報 ⑤子育てに必要な通訳サービス ⑥その他
 - Q5 日本の幼児教育または保育のシステムについての情報収集 ①市役所 ②留学生センター ③インターネット ④日本人の友人 ⑤同国の友人 ⑥同じ研究室の友人 ⑦情報が

得られず知らない ⑧調べていない ⑨その他

- Q6 幼稚園または保育所入所の情報収集 ①市役所 ②留学生センタ ③近くの幼稚園・保育所に直接聞きに行った ④同国の友人 ⑤日本人の友人・知人 ⑥同じ研究室の友人 ⑦インターネット ⑧情報を集めていない ⑨その他
- Q7 市役所で入園情報を入手するときの言葉の問題の解決方法 ①市役所の人の通訳、または市役所でもらった外国語パンフレットを利用 ②日本人の友人が通訳 ③同国の友人が通訳 ④家族が通訳 ⑤解決できなかった ⑥入園情報を集めていない ⑦その他
- Q8 入園の手続きで困ったこと ①日本語が分からず、書類の読み書きが困難 ②入園に必要な書類をそろえることが大変 ③具体的な各園の情報を得ることが困難 ④入園するまでに時間がかかった ⑤就労との関係で入園できなかった ⑥園でかかる費用が分からなかった ⑦特に困ったことはなかった ⑧その他
- Q9 入園後に市役所に求める情報 ①母語での費用に関する情報(金額、振り込み方法など) ②退園または転園に関する情報 ③小学校進学に関する情報 ④その他

3. 子育てに関する質問

- Q10 日本で子育てをする上での気がかり ①母語・母国の文化の習得 ②子どもが日本語を話し、親子のコミュニケーションがとりにくい ③言葉の遅れ ④日本での病気や怪我 ⑤一緒に遊ぶ子どもがいない ⑥帰国後の子どもの再適応(問題なくなじむこと) ⑦いざという時の相談場所(相談者)がない ⑧日本で育児のストレスを発散させる手段がない ⑨その他
- Q11 日本で利用する育児情報源と、一番信頼する情報源 ①配偶者 ②親や親戚 ③園の先生 ④自分の子ども ⑤同国の友人 ⑥日本人の友人 ⑦テレビ・ラジオ・育児書 ⑧病院の医師や看護婦 ⑨インターネット ⑩その他

4. 幼稚園・保育所に関する質問

- Q12 子どもの幼稚園、または保育所への通園 ①通園している(通園していた) ②通園していない
- Q13 通園している(していた)方対象: 通園させて良かったこと ①子どもが日本語を

覚える ②同じ年頃の子どもたちと遊べる ③園生活(保育内容)を楽しんでいる ④保護者が自分の時間(労働・勉強)を持てる ⑤保護者が日本の育児や文化について知ることができる ⑥他の保護者と知り合える ⑦保育者が相談相手になってくれる ⑧しつけをしてくれる ⑨その他

- Q14 通園させて困ったこと ①保護者が日本語がわからず、保育者とコミュニケーションがとれない ②子どもが日本語がわからず、保育者や他児とコミュニケーションがとれない ③連絡帳・おたよりが読めない ④園の教育方針が考えと合わない ⑤園と家庭の宗教・文化が異なる ⑥子どもが母国の文化より日本の文化に慣れてしまう ⑦いじめ ⑧子どもが園生活に適応(問題なくなじむことが)できない ⑨しつけ・規則が厳しい ⑩その他
- Q15 子どもが園生活に慣れるために役立ったこと ①子どもの適応力 ②先生が特に目をかけてくれた ③先生が保護者とのコミュニケーションに配慮してくれた ④先生が母国語・母国文化を園で紹介してくれた ⑤保護者が園行事や活動へ積極的に参加した ⑥園に同国の子どもいた ⑦日本人の子どもが積極的に関わってきた ⑧その他
- Q16 子どもに対して幼稚園または保育所に望むこと ①母国の文化を尊重してほしい(日本の文化を押し付けないでほしい) ②園の子どもたちに外国の文化を尊重・理解できるような教育をしてほしい ③外国人だからといって特別扱いや差別はしないでほしい ④もっと勉強をさせてほしい ⑤行事・活動の参加を強制しないでほしい ⑥宗教上食べられない物の配慮をしてほしい ⑦その他
- Q17 保護者に対して幼稚園または保育所に望むこと ①連絡帳やおたよりが読めるような配慮 ②保育者から積極的に話しかけてほしい ③母国の文化を尊重してほしい ④育児に関する情報を提供してほしい ⑤相談にのってほしい ⑥その他
- Q18 通園していない方対象: 幼稚園または保育所に通園させたいか
〔1〕はい(はい、と答えた方) QA 通園させていない理由 ①入園に必要な条件がそろわない ②費用がかかる ③帰国の予定がある ④入園に時間がかかる ⑤入園方法がわ

からない(書類・情報)⑥その他

[2] いいえ(いいえ, と答えた方) QB 通園させたくない理由 ①入園する必要がない ②通わせたい園がない ③保育者や他の子どもとコミュニケーションがとれない ④いじめが心配 ⑤日本の文化を押しつけられそう ⑥その他

Q19 ご自身とご家族について ①あなたの年齢 ②国籍 ③あなたの夫または妻の年齢 ④国籍 ⑤家庭の使用言語 ⑥あなたの日本語能力 1. よくできる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. ぜんぜんできない ⑦お子さんの日本語能力 1. よくできる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. ぜんぜんできない ⑧日本での滞在理由 1. 留学・勉強 2. 結婚したため 3. 家族の世話 4. 仕事 5. 日本で生まれた 6. その他 ⑨滞在何年 ⑩滞在予定 1. これから__年__ヵ月 2. これから一生 3. 未定 ⑪あなたの仕事 1. 学生・研究者 2. 自営業 3. 会社員 4. 販売・サービス 5. 技術・労務 6. 教員 7. 自由業 8. 無職・専業主婦 ⑫あなたの夫, または妻の仕事 1. 学生・研究者 2. 自営業 3. 会社員 4. 販売・サービス 5. 技術・労務 6. 教員 7. 自由業 8. 無職・専業主婦 ⑬同居家族 1. 子ども__人 2. 夫または妻 3. 自分の父 4. 自分の母 5. 夫または妻の父 6. 夫または妻の母 7. その他 ⑭日本にいる, 同居していない家族 1. 子ども__人 2. 夫または妻 3. 自分の父 4. 自分の母 5. 夫または妻の父 6. 夫または妻の母 7. その他 ⑮お子さんの性別と年齢 第1子: 男・女__歳, 第2子: 男・女__歳, 第3子: 男・女__歳, 第4子: 男・女__歳